

建物にみるデザイン

展示目録

開催日時：2017年11月6日(月)～11日(土)

10：30～17：00

場所：近畿大学中央図書館 5階5-Dグループ閲覧室

* ウイトルウィウス 『建築十書』 バルバロ版 ヴェネチア 1567年

ウイトルウィウスは、古代ローマの建築家、建築理論家。『建築十書』は、古代の建築の様々な原理について、現存する唯一の理論書であるという点で特段に重要な文献で、建築のバイブルとして、ルネサンス期から19世紀に至るまで、比類のない影響力をもつことになった。本書は、1556年に出版されたダニエーレ・バルバロによる注釈書の増補改訂第2版のラテン語版である。レオナルド・ダ・ヴィンチのドローイングで有名な「ウイトルウィウスの人体図」、以前の版には見られないヴェネツィアの俯瞰図も掲載されている。

Vitruvius Pollio, Marcus. *M. Vitruvii Pollionis De architectura libri decem cum commentariis Danielis Baebari*. Venice: Francesco de' Franceschi and Giovanni Chrieger, 1567.

* セルリオ 『建築の書』 ヴェネチア 1566年

セルリオは、ボローニア生まれのルネサンス後期のイタリア建築家。セルリオ『建築の書』は、第1書：幾何学、第2書：透視図法、第3書：古代建築、第4書：オーダー、第5書：宗教建築、第6書：住宅建築、第7書：建築の実際の問題、別冊：扉口のデザインからなる。最初、各書は別々に出版されたが、各書をあわせて1冊に編集したものに人気があり、版を重ねた。本書は、セルリオの生前に出版された第1書から第5書までと別冊を1冊にまとめたもの。

Serlio, Sebastiano. *Libro primo [quinto, straordinario] d'architettura*. Venetia: Appresso Senese, 1566.

* パラーディオ 『建築の四書』 ヴェネチア 1570年

パラーディオは、イタリアのパドヴァ生まれの建築家。本書は、後世になって「パラーディアニズム」として知られている建築の諸原理が述べられているものである。建築様式及び基本的な諸問題、住宅建築、公共建築と都市計画、寺院の4部からなる。

Palladio, Andrea. *I quattro libri dell'architettura di Andrea Palladio*. Venetia: Dominico Franceschi, 1570.

* スカモッツィ 『世界建築の思想』 全2巻 ヴェネチア 1615年

スカモッツィは、イタリアのルネサンス後期の建築家。パラーディオの強い影響を受け、その最大の後継者で、建築に関する遺著の管理者であった。『世界建築の思想』は、百科全書的な理論書で、全10書からなるものとして構想されたが、著者の急死によって、第4書、第5書、第9書、第10書の4部が未完のままに残された。オーダーを扱った第6書を中心に後続の建築家たちに大きな影響を与えた。本書は、初版と同年に刊行された校訂本。

Scamozzi, Vincenzo. *Dell'idea della architettura universale*. Venetia: Presso l'autore, 1615.

* ヴィニョーラ 『建築の5つのオーダー』 アムステルダム 1640年

ヴィニョーラは、イタリアのルネサンス後期の建築家。『建築の5つのオーダー』は、オーダーを初めて系統的に扱ったもので、オーダーすべてを細部にいたるまで図化し解説している。建築家必携の書として広範に流布し、特にフランスで大きな影響を与えることになった。1562年と推定されている初版の刊行以降増補を重ね、各国語に訳された。本書は、イタリア・オランダ・フランス・ドイツ、4カ国語の対訳である。

Vignola, Giacomo Barozzio. *Regola delli cinque ordini d'architettura di M. Giacomo Barozzio da Vignola*. Amsterdam: Iohan en Cornelis Blaeu, 1640.

* フレアール・ド・シャンブレー 『古代建築と近代建築の平行関係について』 ロンドン 1664年

フレアールは、17世紀フランス建築の古典主義化の開始を建築書によって表明したといえる人物。本書は、イギリスの作家、造園家イーヴリンによって英訳されたもので、原書は1650年にパリで出版された。古代遺構や近代(=ルネサンス以降)に出版された建築書におけるオーダーの比較考察を試みたもの。イギリスの新古典主義期におけるオーダー論に影響を与えた。

Fréart, Roland, sieur de Chambray. Evelyn, John(trans.). *A parallel of the antient architecture with the modern*. London: printed by Tho. Roycroft for John Place, 1664.

* カプラ 『初歩の幾何学と建築への応用』 クレモナ 1671年

カプラは、イタリアの建築家、発明家。建築は、幾何学との密接な関係のもとに発展しており、アルベルティや、パラディオらルネサンス期の建築家たちによって、幾何学が建築の理念的なあり方として位置づけられた。

Capra, Alessandro. *Geometria famigliare, et instruzione pratica d'Alessandro Capra architetto cremonese*. Cremona: per Gio. Pietro Zanni, 1671.

* ポッツォ 『アンドレア・ポッツォの絵画及び建築透視図法』 全2巻 ローマ 1700-1702年

ポッツォは、17世紀後半から18世紀初頭にかけて活躍したイタリアの芸術家、建築家。本書は、多くの言語に翻訳され、とくに北方のバロック建築の発展に大きな影響を与えた。展示本の第1巻は、著者の代表作、サン・ティンチャーツィオ教会の天井画「イグナティウス・デ・ロヨラの栄光」が収録された第2版(1702年)である。

Pozzo, Andrea. *Perspectiva Pictorum Et Architectorum Andreae Putei*. [1]:Roma: Ex typographia Antonii de Rubeis, 1702. [2nd. ed.], [2]:Roma: Ex Typographia Jo: Jacobi Komarek Boemi, prope SS. Vincentium, & Anastasium in Trivio, 1700.

* ギブス 『建築部材作図法』 ロンドン 1732年

ギブスは、18世紀前半のイギリスにおいて最も影響力のある教会建築家。本書は、等分割法を基本にしてオーダーを機械的に均等な部分へと分割する方法を示した建築書。

Gibbs, James. *Rules for drawing, the several parts of architecture, in a more exact and easy manner than has been heretofore practised, by which all fractions, in dividing the principal members and their parts, are avoided*. London: Printed by W. Bowyer, 1732.

* スワン 『建築家の為の階段設計名作集』 第2版 ロンドン 1750年

スワンは、イギリスの建築家で著述家。本書には、5つのオーダーの書き方の方法、階段装飾、門や扉や窓のデザイン、暖炉の前飾り、受け材や盾の装飾、施工の規則が書かれている。

Abraham, Swan. *The British architect: or, The builder's treasury of stair-cases, 2nd ed*. London: printed for the author, 1750.

* ラングレイ 『建築家の宝』 新版 ロンドン 1797年

バティ・ラングレイは、18世紀にイギリスを中心に興ったゴシック・リヴァイヴァル建築の初期段階において大きな影響を与えた建築家。『建築家の宝』(1741年)は、18世紀イギリスで職業建築家層に古典様式を特によく広めた書物のひとつで、職人や指導者の備忘録として出版された。オーダーの全般と各部分のほか、扉、窓、アーケードなどの設計のルールを短く簡単に説明した文と、数値や線などが書き込まれた図版からなる。

Langley, Batty. Langley, Thomas. *The builder's jewel: or, The youth's instructor, and workman's remembrance; New ed*. London: printed for T. Longman ... [et al.], 1797.

* ミリツィア 『市民建築原論』 ミラノ 1832年

ミリツィアは、18世紀後期イタリア新古典主義の建築理論家、美術史家、美術評論家。『市民建築原論』(1781年)は、著者の最も重要な作品で、何度も再版されている。第1部:美について、第2部:利便性について、第3部:建物の堅牢さについての3部から構成され、建築の合理的な原理を理論化している。本書は、新古典主義の建築家ジョヴァンニ・アントニオ・アントリーニによる増補・図版入りの1832年ミラノ版初版。

Milizia, Francesco. Antolini, Giovanni (illust.). *Principj di architettura civile*. Milano: Co' tipi di Vincenzo Ferrario, 1832.

* ラスキンの『ゴシックの本質』 ロンドン 1854年

ラスキンは、19世紀イギリスのヴィクトリア時代を代表する美術評論家、社会思想家。『ゴシックの本質』は、『ヴェネツィアの石』の第2巻第6章の一部を省略して、“Working Men’s College”の財政援助のため、1854年10月30日に50ページの小冊子として4ペンスで発売されたもの。本書は、第2版で、初版のわずか3週間後の11月18日に6ペンスで発売されている。口絵の図はドゥカーレ宮殿。

Ruskin, John. *On the nature of Gothic architecture : and herein of the true functions of the workman in art*. London: Smith, Elder, 1854.

* ドレッサー 『日本:その建築、美術、美術工芸』 ロンドン 1882年

ドレッサーは、イギリスの植物学者、デザイナー、作家。1876年、約4カ月の滞日中、各地を訪問し、浅草寺、正倉院、清水寺、伊勢神宮など、歴史的に重要な建築、美術に多く触れ、工芸品の産地を視察した。本書は、日本の建築や美術を紹介しており、西洋におけるジャポニズムの流行に大きな影響を与えた。

Dresser, Christopher. *Japan : its architecture, art, and art manufactures*. London: Longmans, Green and Co, 1882.

* コンドル 『日本庭園入門』 全2巻 横浜 1893年

コンドルは、ロンドン生まれの建築家で、明治10(1877)年に24歳で来日した。工部大学校造家学科(現東京大学工学部建築学科)の初代教授として建築学を教えた。その後、旧宮内省本館、鹿鳴館、岩崎久弥茅町本邸などを次々と竣工させた。本書は、日本の庭園史、構成、技法、特に江戸時代の庭園などについての解説書であり、19世紀のジャポニズムの盛んな時期に、日本式庭園の造園マニュアルとして欧米で活用された。

Conder, Josiah. *Landscape gardening in Japan*. Yokohama: Kelly and Walsh, 1893.

* モンタヌス 『日本誌』 アムステルダム 1680年

アルノルドゥス・モンタヌスは、オランダ人牧師で、文筆家。モンタヌス自身は、一度も来日したことはなく、内容は、伝聞に頼ったため、推測をともなった表現が多い。大坂城、堺港、出島、キリスト教迫害など多数の図絵も含まれ、近世初期の日本を広く西欧諸国に紹介する総合的な出版物である。1669年オランダ語で出版され、その後数ヶ国語に翻訳された。展示品はフランス語版である。

Montanus, Armlidus. *Ambassades de la compagnie hollandoise des Indes d’Orient, vers L’empereur du Japon*. Amsterdam: Jacob de Meurs, 1680.

* シャルルヴォア 『日本の歴史』 全6巻 パリ 1754年

シャルルヴォアは、フランス生まれのイエズス会士。探検家としても新大陸で活躍。初版は1736年パリで出版され、本書はその改訂増補版。シャルルヴォアは、日本に滞在することはなかったが、本書を執筆するにあたって、数多くの文献を参照。キリスト教伝来期におけるイエズス会士の多彩な活躍を記述するとともに、日本人の生活や慣習などについて、安土城とその城下町の図など多くの図版を交えながら解説している。

Charlevoix, Pere de. *Histoire et description générale du Japon. Nouvelle édition*. Paris: Giffart, 1754.

* 松涛軒斎藤長秋(幸雄) 編輯 長谷川雪旦 画 『江戸名所図会』 全7巻20冊

[江戸] 須原屋茂兵衛ほか 天保5(1834)–天保7(1836)年刊

江戸の神社・仏閣・名所古跡の沿革を实地検証によって、斎藤長秋(幸雄)が記述し、幸孝が増補、幸成(月岑(げっしん))が校訂を加えて、斎藤家父子三代によって完成された。江戸だけでなく、遠く離れた浦和、船橋辺りまで記述されている。天保5(1834)年に3巻10冊、天保7(1836)年に4巻10冊が刊行された。

* 蔀関月 編・画 秋里籬島 撰 『伊勢参宮名所図会』

5巻6冊・付2巻2冊 大坂 塩谷忠兵衛ほか 寛政9(1797)年刊

江戸時代の伊勢参宮の道中案内記で、京都と桑名からの代表的な二経路を辿っている。挿絵も多く、お伊勢参りへの誘いとなり、旅の思い出として楽しむこともできるなど評判が良く再刊もおこなわれた。

* 岡田清 編 山野俊峯齋 等画 田中芳樹 校 頼杏坪 等訂『芸州巖島図会』全10巻10冊

大坂 河内屋儀助 天保十三(1842)年刊

巖島神社(広島県宮島町)周辺を描いた名所図会で、『巖島宝物図会』では巖島神社に伝来する宝物が細部の模様に至るまで詳細に描かれている。本書は、『巖島図会』5巻と『巖島宝物図会』5巻からなる巖島神庫蔵板である。

* 秋里籬島 著 竹原春朝齋 画『都名所図会』全6巻6冊 皇都 吉野屋為八 天明6(1786)年刊

多彩な観光都市である京都の名所案内記として、安永9(1780)年に出版されたものの再板である。現地取材をもとに、見開き図版を含めた名所絵250点余、紹介した名所の数は740カ所に及んでいて、版を重ねるほど人気があった。籬島と春朝齋は、この後、『拾遺都名所図会』、『大和名所図会』、『撰津名所図会』、『東海道名所図会』などを次々に著し、名所図会のブームを作った。

* 秋里籬島 撰 竹原春朝齋 画『大和名所図会』全6巻7冊

浪華 高橋平助ほか 皇都 殿為八ほか 寛政3(1791)年刊

大和国疋田村の地誌研究家、植村禹言(うへむら のぶこと)の遺志を継ぎ、秋里籬島がその草稿を得て撰した。はじめに、大和の来歴、以下、郡ごとに分けて神社仏閣、名所旧跡についての由来と現状を述べている。春朝齋は浮世絵師としての巧さを発揮し、由来を縁のある和歌と絵図で描いている。

* 秋里籬島 著 丹羽桃溪 画『河内名所図会』全6巻6冊

皇都 殿為八ほか 浪華 森本太助ほか 享和元(1801)年刊

河内国(大阪府南東部)を描いた名所図会である。本書巻之四は、若江郡、巻之五は、高安郡、河内郡と、本学周辺の地について記述されている巻で、若江城墟、弥刀神社、石切剣箭神社、といった名所・旧跡のほか、『伊勢物語』筒井筒の段に由来する故事や、楠木正行が討死した四条畷合戦の『太平記』からの引用と挿絵などがある。

* 広岡保教 著『番匠町家雛形』全2巻2冊 江戸 須原屋茂兵衛 明和7(1770)年刊

雛形本とは、江戸時代初期に成立した木組み、部材および部材間寸法の比例、図案などを示す建築設計の手引書である。もともとは、近世初期の大工棟梁家において体系化され一子相伝とされた秘伝書であった。雛形本では、図画が技術説明のために不可欠な要素となっている。本書は、その後の木造建築技術における教科書的な書物となっていった。

* 李明仲 奉勅編『营造法式』全34巻8冊 複製 北京 中国書店 1919年刊

中国の建築技術書。北宋の皇帝哲宗の時、李明仲(李誠)が皇帝の命令により編纂した。1103年に初版が刊行されたが現存しておらず、現存する版本は 1145年に重刊されたものである。建築関係の資料を掲載し、13種の工法、材料などの規格が詳細に記されており、緻密な絵図が付されている。中国宋代の建築構造や技術を知る上で、貴重な文献である。

* 平政隆 著『愚子見記』全9冊 複製 井上書院 1988年刊

法隆寺の工匠、平政隆(本名 今奥政隆)が、書いた建築技術書である。原本は、法隆寺の所蔵で天和3(1683)年の著作。彼が見聞した建築関係の様々な事柄を記したものであるが、広く吉凶・尺度・武具・調度にも及んでいる。御所や社寺の建物の形状・寸法、建築費の積算、工事仕様などを記した建築史における貴重な資料である。

➤ 大型本

* カステル『図解古代のヴィラ』ロンドン 1728年

古典建築を学ぶ学生であったカステルが自費出版したもの。古代ローマの政治家、文人小プリニウスが友人にあてた別荘について説明した2通の手紙の英語翻訳、さらに、古代ローマ人の別荘についての考察が記されている。巻末には、2通の手紙から想像し、再現されたふたつの別荘と庭園の図面が集められている。

Castell, Robert. *The villas of the ancients illustrated*. London: Printed for Robert Castell, 1728.

* チェンバーズ『公共建築論』第2版 ロンドン 1768年

チェンバーズ卿は、イギリスで活躍したスウェーデン生まれの建築家。『公共建築論』(1759年)は、古代とルネサンス建築において建築オーダーがどう使われているかが学究的かつ広範に調べられた理論書。本書は、1768年に刊行された第2版。1791年に刊行された第3版以降は増補され、『公共建築の装飾論』となった。

Chambers, William, Sir. *A treatise on civil architecture. 2nd ed.* London: printed by J. Dixwell, 1768.

* 『オルヴィエート大聖堂図版集』 ローマ 1791年

イタリア中部に位置する世界一美しい丘上都市と呼ばれる中世の面影が残る町の中央にそびえるオルヴィエート大聖堂は、1290年着工、1590年まで3世紀にも及ぶ長い年月をかけて建設された。シエナの建築家、彫刻家マイターニ設計の華麗で美しいモザイクや彫刻で飾られたファサードや、聖ブリッツィオ礼拝堂の壁一面に飾られたシニョレリの「最後の審判」を題材としたフレスコ画がとくに有名。本書は、オルヴィエート大聖堂の図版集。

Stampe del Duomo di Orvieto dedicate alla Santità di nostro Signore Pio sesto Pontefice Massimo. Roma: Con Approvazione, 1791.

* フランチェスコ/ジェローラモ『サンミケーリによる教会と軍事施設』ヴェローナ 1823年

サンミケーリは、イタリアのルネサンス後期の建築家。オルヴィエート大聖堂の主任建築家を務めたひとり。本書は、パラッツォ・カノッサ、パラッツォ・ポンペイ、パラッツォ・グリマーニなど、サンミケーリの代表的な建築に関する研究書で、豊富な図版を収録している。

Francesco, Ronzani. Gerolamo, Luciolli. *Le fabbriche civili ecclesiastiche e militari di Michele Sanmicheli.* Verona: [Marco Moroni], 1823.

* ヒットルフ/フォン・ツェント『シチリアの近世建築』パリ 1835年

ヒットルフ(フランス名はイトルフ)は、19世紀初頭から半ばにかけてフランスで精力的に活動したケルン生まれの建築家。1823年には、パリでともに学んだドイツ人建築家フォン・ツェントとシチリアへ建築めぐりの旅をし、膨大な量の資料を持ち帰った。その成果として、図版主体の『シチリアの古代建築』(1825年)と本書を刊行した。

Hittorff, Jacques Ignace. von Zanth, Karl Ludwig Wilhelm. *Architecture moderne de la Sicile.* Paris: P. Renouard, 1835.

* グルーナー『イタリアの教会と宮殿のフレスコ装飾や化粧漆喰細工』全2巻 新版 ロンドン 1854年

グルーナーは、ドレスデン芸術アカデミーの教授で、銅板画収蔵館の館長を務めた。『イタリアの・・・』(1844年)は、15世紀から16世紀イタリアの教会や宮殿のフレスコ画や化粧漆喰の装飾の標本と解説である。前半はヴァチカン宮殿のラファエロの開廊やヴィラ・マダマ、パラッツォ・ファルネーゼなどのカラー絵や細部まで描きこまれた銅板図、後半はその装飾部分のみをまとめた図が収められている。

Grüner, Ludwig. *Description of the plates of fresco decorations and stuccoes of churches and palaces in Italy, during the fifteenth and sixteenth centuries, New ed.* London: Thomas M'Lean, 1854.

▶ インクナブラ

* シェーデル『ニュルンベルク年代記』ニュルンベルク 1493年

シェーデルは、ドイツの医者、人文学者。『ニュルンベルク年代記』は、聖書をもとにした世界の歴史、地理に関することを年代順に収録した大冊である。地名の付された116の木版画のうち、約3分の2が都市景観図で、68の都市誌の記述に添えられている。本書は、ラテン語版とドイツ語版が同時に刊行されたうちのラテン語版である。

Schedel, Hartmann. *Registrum huius operis libri cronicarum cum figuris et ymaginibus ab inicio mundi.* [Nuremberg]: Anthonius Koberger, 1493.

* 『ドイツ語聖書』全2巻 ニュルンベルク 1483年

コーベルガー聖書とも呼ばれ、文字の読めない人々にも聖書の物語が分かるように100を超える木版画があり、後の聖書の挿絵を描く画家に大きな影響を与えたとされる。印刷者は、ニュルンベルクにおける最大の印刷業者アントン・コーベルガー(1440-1513)である。

Biblia Sacra Germanica. 583 of 586 leaves, lacking three blanks. Nuremberg: Anton Koberger, 1483.